

相原道子／横浜市立大学長
五十嵐仁一／ENEOS総研株式会社顧問
上山隆大／元政策研究大学院大学副学長
大槻博司／カリフォルニア工科大学フレッド・カ
ブリ冠教授
小幡純子／日本大学大学院法務研究科教授
岸輝雄（座長）／東京大学名誉教授
久間和生／農業・食品産業技術総合研究機構理事
長
佐々木泰子（座長代理）／お茶の水女子大学長
瀧澤美奈子／科学ジャーナリスト
永井良三／自治医科大学長
永田恭介／筑波大学長
山西健一郎／元日本経済団体連合会副会长

87, 374

有識者懇談会の構成員

政府は2月、日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会の初会合を内閣府で開きました。座長には、元外務大臣科学技術顧問で元学術会議副会長の岸牌雄東京大学名誉教授（材料工学）が就任。メンバーは大学や経済界の関係者12人（別

表で、メンバーではない学术会議の梅田謙一郎会長も出席しました。学術会議会食には毎回参加を要請するといいます。

議事録を発表者の手に入りで公表することを確認されました。会合後、岸座長は記者団に「科学技術が活躍の時代。早く取り組んで課題を解決し、学生会議が先導するような国にしないといけない」「学術会議は非常に大きな国際的役割を果す」

前記がもつてゐる。國體的に通用するあり方に十分配慮しなければならない」と表明しました。

抱える課題を大きな視野で見据え、日本のナショナルアカデミーとして学術会議に期待される役割を考えてほしい」と述べたと話しました。政府は先の通常国会に、学術会議の独立性を損なう法改悪案の提出を狙っていましたが、多くの批判を受け断念。学術会議が「開かれた協議の場」を求めたのに対し、政府は非公開の懇談会を設置した経緯があります。

非公開で在り方協議 學術會議巡り政府有識者懇

1